

5月のお代官様～波止場しぐれ

あれは高松、最終便、グラス持つ手に汽笛がからむ
ここは瀬戸内、土庄港、恋も着きます、夢もゆく
春の紅さす、ネオン街



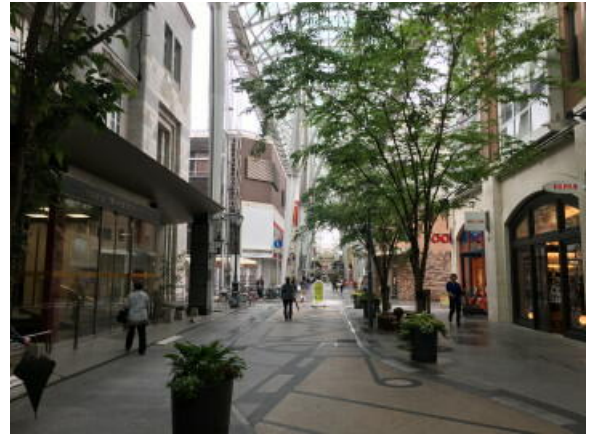
カラオケに行くと、故郷を懐かしんで、つい歌ってしまう石川さゆりさんの名曲「波止場しぐれ」・・・高松は思い出がいっぱい詰まった街で、昭和の終わりで最も元気だった頃の良い事、悪い事、キラキラ輝いていた自分の歴史が走馬燈のように蘇ってきます。

初めての一人暮らし、都会が恋しくて歩き回った繁華街。最初の会社を退職するまで慣れ親しんだ丸亀町・南新町。友人の仕事を手伝って走り回った兵庫町・片原町。二番目に勤めた会社では、営業マンとして訪問。田町にトキワ街、ライオン通りがお気に入り、定宿が厚生年金会館(現在のパールガーデン)で退職したのが10年前。退職日には、古馬場で送別会、次の会社に向けて片原町の古天神さん(華下八幡宮)に願掛けして以来、高松の中核部を歩くことも無くなりました。行き交う人が多かった商店街も、大きな駐車場のあるショッピングモールの出現で寂れて行くというのが、クルマ社会の常ですが、心の故郷、高松はどうなったのでしょうか。

ここ10年、栗林公園や屋島には登っても、商店街には近づくことが無かったので、春の紅さすネオン街を探検してみました。JR高松駅は、連絡船が廃止されてから、サンポート開発で都会的なランドマークに。琴電の高松築港駅は、グランドホテルの陰で目立たなかったのに、建物を撤去して、陽の当たる公園にメタモルフォーゼ。



兵庫町商店街は、変わらぬ姿の瓦せんべいの老舗、漬物の大森屋、さぬき麺業など昭和の姿そのままの部分も残っていますが、三越付近が近代的な造りで、片原町との境目がドームのように。南へ降りる丸亀町商店街もかつてのアーケードが無くなって高い屋根が続きます。明るくなって、ユニクロ、GU、ドラッグストアができて、都会にありがちな風景に変わってしまいました。



国道11号線との交差部分も都会的なイメージで、南新町商店街へと続きます。よく待ち合わせした交番付近、思い出がいっぱい詰まったオリーブホール、当時はおしゃれだったカフェグレコなんて懐かしい風景も残っていましたが、新しいうどん屋さんが出て、讃岐の第二の名物の骨付鳥を扱う店舗が増えて、餃子の王将に流行りのラーメン屋さんなどが、景色を新しくしていました。



田町商店街は、観光通りの角にあるマルナカのお魚やさんが健在。いただき風のお魚やさんがあって、暗いムードがノスタルジックでしたが、ゆるキャラの「たまぢい」くんの看板が真新しく気に入りました。



ただ、交番から瓦町駅に続く最も栄えていたトキワ街が寂れきっていました。シャッターが下りたままのお店ばかりで、当時お買い物していた場所がどこかわからない状態です。瓦町では、かつて、美味しいと思って通ったうどん屋で

冷ぶっかけを注文。腰の強い細麺であるのは同じですが、何かが違う。自分の舌が肥えたのか、お店の代替わりのせいか、全体的なレベルが上がったのか、次回は、新しいお店を開拓してみたいと思いました。



時間の都合上、ライオン通りや古馬場までは、歩いていませんが、時と共に街が変わっています。古いものを懐かしむのではなく、新しいものを認めて行きたいのですが、なんとなく寂しい気分で高松の繁華街を探検してしまいました。次回は、10年後になるかも知れませんが、新しい発見を求めて、故郷の高松を探検したいと思っています。

平成30年5月9日記

[トップ](#)
[戻る](#)

[6月のお代官様～Lovely](#)